

## 指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成27年度)

施設の名称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者の名称	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
施設所管部課(室)	環境生活部 自然保護課

## 1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成 3年 7月 ~ 平成18年 3月	管理委託	(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成18年 4月 ~ 平成21年 3月	指定管理者	(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成21年 4月 ~ 平成26年 3月	指定管理者	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成26年 4月 ~ 平成31年 3月	指定管理者	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

## 2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	公益財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
	所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2
指 定 期 間	平成26年 4月 1日 ~ 平成31年 3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募	

## 3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	
所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2	
設置年月	平成 3年 1月	
根拠条例等	サンクチュアリセンター条例	
設置目的	伊豆沼・内沼を調査・研究し保全対策を確立するとともに、人間と野生動植物とが共存する優れた自然環境としてのサンクチュアリ(聖域)を創造し、併せて県民の自然保護思想の高揚と自然と調和した活力ある地域づくり等を推進するため設置されました。	
施設の内容	敷地面積	3,850㎡
	構造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
	内 容	1階 829.87㎡ (事務室、資料室、実験室、研修室、ボランティアルーム) 2階 563.62㎡ (会議室、展示室、軽食喫茶室、観察展望室)
開館(所)日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(日曜日、土曜日、1月2日を除く。)を除く日 ◇ 12月29日から12月31日を除く日	
開館(所)時間	午前9時 ~ 午後4時30分	
指定管理者が行う業務の範囲	1 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター ①建物等の管理 ②物品の使用及び管理 ③施設の共用等について ④入館の拒否等 ⑤損傷等の届け出 ⑥展示物等の管理、保全及び維持管理 ⑦事故防止と発生時の処理 ⑧再委託業務について ⑨施設の管理運営に関する環境配慮について ⑩事業報告 2 伊豆沼・内沼周辺地域維持管理及び整備業務 ①水生植物園の維持管理及び整備 ②買上地(県有地)の維持管理及び整備 ③ハス田の維持管理 ④観察路の維持管理及び整備	
利用料金制	採用の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
開館(所)日数	200 日	296 日	207 日	103.5%	69.9%
延べ利用者数	30,000 人	30,666 人	38,403 人	128.0%	125.2%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
延べ利用者数	30,000 人	30,666 人	38,403 人	128.0%	125.2%
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	30,000 人	30,666 人	38,403 人	128.0%	125.2%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
県指定管理料	28,724	28,724	28,724	100.0%	100.0%
利用料金収入	0			#DIV/0!	#DIV/0!
その他	0			#DIV/0!	#DIV/0!
収入計 (a)	28,724	28,724	28,724	100.0%	100.0%

(2) 支出

人件費	18,464	18,062	18,364	99.5%	101.7%
施設管理費	10,260	10,262	9,529	92.9%	92.9%
事業運営費	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
その他	0	400	831	#DIV/0!	207.8%
支出計 (b)	28,724	28,724	28,724	100.0%	100.0%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(平成27年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	指定管理者として、「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用を図るとともに、破損箇所等の早期発見と保守に努め、経費節減等も図りながら、適切に保全・管理した。		運営に関しては、少ない人数で総合的施策の推進と教育的効果の向上を図りながら、施設備品の適切な管理と利用入館者への接客サービスに意を用い、自然保護・動物愛護思想普及に相乗的効果があがるよう運営管理を行った。		A	施設管理及び各種事業等に職員が鋭意取り組んでおり、適正な管理運営がなされている。	A
人員体制	正規	4人	非正規	4人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	1 日常的に施設並びに設備関係、展示品の見回り点検を行い、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。 2 施設管理に関する法令を遵守し、清掃業務・消防設備保守点検・空調設備保守点検・重油タンク清掃業務・貯水槽清掃業務・エレベーター保守点検・機械警備業務については、指名競争入札により委託業者を選定し、適切な管理の下、経費節減に努めた。		法令を遵守し定められた点検・検査を行うとともに、職員が常時、建物内及び敷地内を巡回し、盗難、汚損及びゴミの不法投棄等の防止を行った。		A	法令に従い管理施設の保守点検がなされている。また、管内の展示物や設備機器についても適正に管理されており、管内の清掃も行き届いている。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	別記1のとおり		各研究員が研究内容をシンポジウム及び学会で発表している事により、沼の保全対策は、全国から注目を浴びている。		S	各研究員が、伊豆沼、内沼に生息・生育する鳥類、魚類、水生植物等に関する研究を鋭意行っており、学会等においてその成果を発表するなど積極的に情報発信をしている。特にこうした研究成果を基とした沼の保全対策は評価に値する。	S
④自主事業の実施	別記2のとおり		自主事業は、参加者から好評で、リピーターが多く参加している。		S	伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストは、25回と回を重ね、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさと、自然保護の重要性を広く伝えてきている。また、様々な自然体験講座を開催し、自然保護思想の普及に努めている。	S
⑤利用者サービスの向上	厳しい予算の中、入館者のニーズに応えるべく、サンクチュアリセンターのパンフレットを独自で作成し配布を行い好評を得ました。また、情報の発信は、ホームページを常に更新し、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュースを毎月発行し活用、さらにはマスコミなどを通じ、水鳥やブラックバス等の情報をはじめ調査研究などを積極的に情報発信に努めた。 研修室や会議室は、管理運営に支障のない限り伊豆沼・内沼関連の各種会合等に開放し、有効活用を図った。		地元はもとより県内、県外からの多くの方々が来館する。少ない人数で沼の保全対策からサンクチュアリセンターの運営までを行う当財団の役割は大変高く評価されている。		A	インターネットのホームページを活用し、情報が提供されている。また、独自でセンターニュースを毎月発行しているほか、観光客の利便に供するため、観光地図等を取りそろえ提供するなど来客者のニーズに的確に対応している。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	館内に設置する「ご意見カード」の意見の内容を分析し、誠実に対応した。接遇にも十分留意しながら対応し、トラブルの未然防止に努めた。施設利用者の利便性と入館者増加に向け、館内展示物の配置に工夫するなど、観葉植物、花鉢を設置し、うるおいのある空間づくりに努めた。		来館者からの意見を参考に、展示物に予算をかけられないため、職員が展示物やパネル等を作成し館内展示を行っている。		A	来館者の意見を大切に、伊豆沼・内沼の自然の紹介や、研究成果を分かりやすく展示するなど運営に活かしている。	A
⑦安全対策	毎年9月に築館消防署において、職員全員で心肺蘇生の講習会を行い、来館者に対して速やかに対応できるよう訓練を行った。消防法で、定められている防火管理者等の有資格者を配置して、火災予防について万全な管理に努めた。		消防設備等の点検において不具合等があった場合すぐに修繕を行っている。常に危機的意識を持ち、大きな災害に備えている。		A	消防設備の点検等の安全管理について適正に行われている。また、緊急時の連絡体制も整っている。	A
⑧県民の平等利用	センターの利用及び各種自主事業への参加については、県内、県外を問わず公平平等とし、誰にでも気軽に利用できる様にした。また、調査・研究の成果については、一般にも広く公表し、その成果を社会に還元した。		事業のPR及び調査研究の成果は、県サンクチュアリセンターが展示施設だけではなく、伊豆沼・内沼の環境保全対策及び調査研究機関である事を広く県内外に浸透しつつある。		A	各種の自主事業は、広く周知しており、多くの参加を得ている。また、調査・研究成果は、学会や誌面を通じ広く公表され、その成果は、高い評価を得ている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
			評価		評価	
⑨個人情報の保護	1. 情報公開については、県の情報公開条例は勿論のこと、財団情報公開規程により、適切に対応することになっている。 2. 個人情報保護については、県の個人情報保護条例を遵守し、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」や「自然体験講座」、その他センターで得られた個人情報は、個人の権利利益の侵害の防止を図るため、慎重かつ適正に取り扱った。	27年度の情報公開の要請はなし。		A	実施事業で得られた個人情報は、適正に取り扱われている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり	リニューアル工事にともない開館日数207日だったが、1日平均186人、27年度総入館者数38,403人		S	リニューアル工事に伴い115日間休館したにもかかわらず、入館者が昨年度と比較して7,737人増加している。入館者数の125%増は評価する。	S
⑪収支実績	上記「5. 施設利用実績」のとおり	経費削減を実施し、粗餐の範囲内での執行を行った。		A	限られた予算の中で、各事業が適正に執行されている。また、協賛企業からの支援を有効に活用し事業に取り組んでいる。	A
⑫その他の取組	絵画展の開催、民間企業が沼周辺で行うボランティア活動に協力を行い、自然保護思想の普及活動にも力を入れた。また、学校や各種団体から依頼された講師派遣や自然観察会などの実施に積極的に対応した。なお、新たに出前講座を開設した。	地域に密着した事業を展開するため、事業以外の取り組みも、重要視される。毎年開催している伊豆沼・内沼出前講座には、155名の参加があり、今後も地元との連携を密にし、事業を推進したい。		A	他団体とも連携した事業が積極的に進められている。	A
総合評価		調査・研究及び沼の保全の核となるサンクチュアリセンターの経費の削減等を行い、管理に努めている。伊豆沼・内沼の環境保全対策は、多くの県民から高い評価を得ている。		A	県の環境保全の代表的な実践地として、沼の生態系保全等に関する研究成果を広く社会に還元している。また、生物多様性の保全等の環境教育施設として普及・啓発等の役割も十分果たしている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	平成27年7月25日に展示内容を全てリニューアルしたサンクチュアリセンターは、来館者より高い評価をいただいている。今後は、雨漏り等修繕箇所について、自然保護課と協議を行いながら、施設の整備を行っていく。	平成28年度に屋根の雨樋及び排水設備改造工事が行われる。また、建物設備の老朽化が進行していることから、改修計画により順次、整備していく。

## 別記1【③運營業務(ソフト事業等)の実施】

### ○原著論文(査読付学術雑誌)

#### 第一著者

- 1 嶋田哲郎・本田敏夫. 2015. 伊豆沼・内沼におけるレンカクHydrophasianus chirurgusの初記録. 伊豆沼・内沼研究報告 9: 71-73.
- 2 芦澤淳・藤本泰文・鈴木勝利・星雅俊・嶋田哲郎. 2015. 曳き網, 巻き網を用いた オオクチバス稚魚の捕獲方法の開発. 伊豆沼・内沼研究報告 9: 23-33.
- 3 芦澤淳・星雅俊・藤本泰文・嶋田哲郎. 2015. 湖沼における刈払い装置を用いたハ ス群落の抑制方法に関する試験. 伊豆沼・内沼研究報告 9: 61-70.

#### 共著

- 1 有田康一・芦澤淳・藤本泰文・嶋田哲郎・林誠二・玉置雅紀・矢部徹. 2015. オオクチバスMicropterus salmoidesの成長段階における放射性セシウムの蓄積. 土木学会誌 71: 267-276.
- 2 Hupp, J. W., Kharitonov, S., Yamaguchi, N. M., Ozaki, K., Flint, P. L., Pearce, J. M., Tokita, K., Shimada, T., Higuchi, H. 2015. Evidence that dorsally mounted satellite transmitters affect migration chronology of Northern Pintail. Journal of Ornithology 156: 977-989.
- 3 仲田信也・梅田信・嶋田哲郎・藤本泰文. 2015. 伊豆沼におけるハス群落消長の年間変動と湖水・底質環境の関連. 土木学会論文集B1(水工学), 71: 757-762.
- 4 梅田信・仲田信也・嶋田哲郎・藤本泰文. 2015. 伊豆沼における湖内植生に関する現地観測. 東北地域災害研究 51: 249-252.
- 5 安野翔・嶋田哲郎・芦澤淳・星雅俊・藤本泰文・菊地永祐. 2015. 伊豆沼のハス群落拡大に伴う貧酸素化の底生動物群集への影響. 伊豆沼・内沼研究報告 9: 13-22.
- 6 長谷川政智・池田実・藤本泰文. 2015. 宮城県に侵入した淡水エビ: カワリヌマエビ属Neocaridina spp. の分布拡大とヌカエビParatya compressa improvisa への影響. 伊豆沼・内沼研究報告 9: 47-56.

### ○学会やシンポジウムにおける発表

#### 第一著者

- 1 嶋田哲郎・土方直哉・時田賢一・内田聖・呉地正行・杉野目齊・山田由美・樋口広芳. 2015. 衛星追跡で明らかとなったコクガンの国内における春の渡りと分布. 日本鳥学会兵庫大会, 神戸.
- 2 Shimada, T. 2015. Biodiversity Management in Lake Izunuma-Uchinuma. 2015. Korea-Japan Wetland Network Meeting, Korea.
- 3 藤本泰文・森晃・鹿野秀一. 2015. 伊豆沼・内沼のハス群落における貧酸素状態と魚類の生息状況. 第10回伊豆沼・内沼研究集会, 栗原.
- 4 藤本泰文・芦澤淳・森晃・高橋清孝. 2015. 伊豆沼・内沼におけるオオクチバス  
Micropterus salmoides用人工産卵床へのブルーギルLepomis macrochirusの集団産卵と 防除活動による生息数の減少. 2015年度日本魚類学会年会, 奈良.
- 5 森晃・藤本泰文・芦澤淳・嶋田哲郎. 2015. 伊豆沼・内沼における電気ショックカーボートを用いたオオクチバスの駆除と空間分布の把握. 応用生態工学会大会, 郡山.

#### 共著

- 1 水野勝紀・劉曉飛・浅田昭・片瀬冬樹・村越誠・八木田康信・藤本泰文・嶋田哲郎・渡辺好章. 2015. “三次元音響コアリングシステム(3D-axs)の開発”. 海洋音響学会2015年度研究発表会, 東京.
- 2 水野勝紀・劉曉飛・片瀬冬樹・浅田昭・村越誠・八木田康信・藤本泰文・嶋田哲郎. 2015. “3次元音響コアリングシステムを用いた堆積層内の蓮根検出の試み”. 日本陸水学会80回プログラム, 函館.
- 3 鹿野秀一・上坂宗憲・高木優也・嶋田哲郎・藤本泰文・芦澤淳. 2015. ハス群落が拡大する浅い湖沼におけるブルーギルの食性. 日本陸水学会第80回大会, 函館.
- 4 安野翔・藤本泰文・嶋田哲郎・鹿野秀一・菊地永祐. 2015. 安定同位体比を用いたコイ及びフナ属魚類の餌資源推定. 平成27年度公益社団法人日本水産学会秋季大会, 仙台.
- 5 安野翔・迫裕樹・鹿野秀一・芦澤淳・藤本泰文・嶋田哲郎・菊地永祐. 2015. 伊豆沼のハス群落拡大によるメタン食物連鎖への影響. 日本陸水学会第80回大会, 函館.

### ○委員会委員・非常勤講師など

#### (嶋田上席主任研究員)

1. 希少野生動植物保存推進員(環境省)
2. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業(ガンカモ類調査)検討委員(環境省)
3. 宮城県自然環境保全審議会専門委員(宮城県)
4. 宮城県生物多様性地域戦略検討委員(宮城県)
5. 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員(宮城県)
6. 栗原市環境審議会委員(栗原市)
7. 登米市環境審議会委員(登米市)
8. 登米市生物多様性とめ戦略検討委員会委員(登米市)
9. 日本鳥学会和文誌編集委員及び企画委員(日本鳥学会)

#### (藤本研究員)

1. 希少野生動植物保存推進員(環境省)
2. 宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員(宮城県)
3. 栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会委員(栗原市)
4. 遠野市山口集落伝統文化的景観保存調査委員(遠野市)
5. 旧品井沼ため池群自然再生推進委員(環境省)
6. 日本魚類学会自然保護委員

別記2【④自主事業の実施】

- ① 自然体験講座の開催  
自然保護思想の普及活動の一環として、季節ごとのテーマを設定し、年9回開催した。

◇平成27年度伊豆沼・内沼自然体験講座

回数	テーマ	開催日	参加者数
第1回	水辺の生き物採集と観察会	6月27日	19名
第2回	昆虫採集と標本作り	7月20日	18名
第3回	昆虫採集と標本作り	8月 8日	13名
第4回	伊豆沼漁師体験	9月26日	20名
第5回	木工クラフト教室	10月10日	22名
第6回	ガンの飛び立ち観察会&ラムサール湿地見学ツアー	11月 8日	8名
第7回	ガンの飛び立ち観察会&ラムサール湿地見学ツアー	11月22日	16名
第8回	伊豆沼ガンの飛び立ち観察会	12月12日	20名
第9回	伊豆沼ガンの飛び立ち観察会	1月16日	19名
合 計			155名

※ 予算内訳 収入 財団 計 18万円  
支出 諸謝金(講師謝礼等)、燃料費、保険料 計 16万円  
(経費が少ない理由は、財団職員が講師を行っているため。)

- ② 第25回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの開催  
栗原・登米両市との共催事業となっており、伊豆沼・内沼の重要性と環境保全の大切さをアピールした。  
なお、作品は12月に募集を行い、入選作品の審査を経て、2月から県サンクチュアリセンターで全作品を展示した。  
(出品者数109名、内入選者数20名)

<第24回写真展巡回展示箇所(入選作品のみ)>

登米市伊豆沼内沼サンクチュアリセンター 修繕工事のため展示中止  
登米市市役所一階ロビー 平成27年6月2日～6月26日  
栗原市市役所一階ロビー 平成27年7月1日～7月30日  
栗原市サンクチュアリセンターつきだて館 平成27年8月1日～8月30日

## <第24回写真展特別展示>

宮城県庁2階

平成27年9月14日～9月25日

※ 予算内訳 収入 栗原市40万 登米市30万 財団40万 計 110万円  
支出 旅費、通信、消耗品、印刷費、諸謝金(賞金等) 計 109万円

### ③ 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンの実施

伊豆沼・内沼はラムサール条約指定登録湿地として国際的にも注目される湖沼であり、美しい湖沼環境を保全するため、クリーンキャンペーン実行委員会と登米・栗原両市との共催により春分の日を実施した。

#### ◇参加者数及びゴミの回収状況

開催回数	実施日	参加者数	ゴミの量	備考
第57回	3月20日	915人	2.4トン	若柳地区 363名 0.6トン

#### <実行委員会メンバー>

栗原市若柳自然保護協会、伊豆沼漁業協同組合、内沼観光物産協議会、迫川上流土地改良区、伊豆沼土地改良区、穴山土地改良区、新田北部土地改良区、宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、財団

※ 予算内訳 収入 財団 計 5.5万円  
支出 印刷 保険 計 5.0万円

### ④ バス・バスターズの活動(ブラックバス駆除ボランティア)

伊豆沼・内沼では、オオクチバスの影響によって沼から姿を消してしまった希少魚ゼニタナゴの復元を目指す「ゼニタナゴ復元プロジェクト」の一環として、ボランティア「バス・バスターズ」の協力を得て、オオクチバスの駆除活動を2004年から行っている。

オオクチバスについては、人工産卵床6箇所及びふ化して間もない稚魚約5.1万個体を駆除した。

なお、ブルーギルの産卵については確認されなかった。長年の活動により復元目標であるゼニタナゴを19年ぶりに伊豆沼・内沼で再発見し、沼の自然再生が着実に進行していることを確認した。

#### イ 会 議

- ゼニタナゴ復元プロジェクト会議 5月17日
  - ・平成27年度のブラックバス駆除活動方針の協議
  - ・人工産卵床設置作業

□ 駆除作業

5月中旬から6月下旬までの毎週日曜日に人工産卵床の確認と駆除作業を行った。  
参加者数は延べ約160名となった。

☆ 自主事業収支

(単位:千円)

自主事業区分	収入	支出	収支
自然体験講座	180	160	20
フォトコンテスト	1,100	1,090	10
クリーンキャンペーン	55	50	5
合計	1,335	1,300	35